

**第 1 回エコエリアやまがた推進コンクール
優秀賞（エコエリアやまがた推進協議会長賞）**
※掲載している情報は平成 18 年度時点のものです。

名称	有限会社 山形南陽のんのん倶楽部
所在地	南陽市
<p>1. 当該農家（集団、団体、自治体等）の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 54 戸 ・ 果樹（ぶどう、おうとう、りんご、西洋なし、もも）を中心に水稻、野菜（きゅうり、すいか等）を作付け ・ 持続型農業生産方式導入面積 38.7ha（出荷契約面積 22.18ha） <p>2. 取組みの背景・経過等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1980 年（昭和 55 年）に、山形南陽のんのん倶楽部の前身である JA 山形おきたま南陽特産物普及会は、産直活動を消費者と農民の相互理解による協同の事業として位置づけ、産直活動を通して地域農業の発展、個々の農家の営農を守ること、また安全・安心な食物の生産、健全な食文化の探求を理念に、設立された。 ・ 20 余年の間にさまざまな過程を経て、2001 年（平成 13 年）4 月 13 日に農事組合法人山形南陽のんのん倶楽部が設立した。 ・ 設立趣旨として、 「農産物、流通の国際化が急速に進み、国内経済はデフレ状態、また、自然環境の悪化は農業の存続を困難な状況にしている一方で、日本農業全体を、環境に調和した持続性のある農業に転換し、循環型社会の実現が求められている。このような中で、安全、安心で、食べて美味しい、健康野菜、果物を生産し提供することで、食べる人にも、作る人にも、環境にもやさしい持続可能な農業生産を目指し、そこに活路を見だし、作り方にこだわる農業集団として設立する。」とした。 ・ 2006 年（平成 18 年）4 月 1 日に、時代の速い流れに対応しながら農事組合法人としての設立趣旨や基本理念をより確かに実現するために、農事組合法人から『有限会社山形南陽のんのん倶楽部』へと組織を変更した。 ・ 事業目的は、基本理念を基に、①農産物の生産と販売 ②農産加工品の生産と販売 ③農業資材の斡旋と販売 ④農産物などの小売事業 と展開している。 <p>3. 農業経営・技術と取組姿勢</p> <p>基本理念を法人設立時（2001 年 4 月 13 日）に下記のように決定した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地域農業と自然環境をたいせつに 安全、安心な 食べて美味しい健康野菜、果物を生産し提供していきます。</p> <p>イ. 土作り・・・農業の基本である土を大切に土の活力を高め、農地の生態系を豊かにします。</p> <p>ロ. 品質・・・安全性、栄養、おいしさ、消費者に歓迎される高い品質を実現します。</p> <p>ハ. 肥料・・・過剰施肥をひかえ、有機質肥料への転換をはかり、資源の地域循環を大切にします。</p> <p>ニ. 農薬・・・病害虫、除草対策は農地生態系の健全化と作物の健康な生育を基礎とした病害虫の発生抑制を基本に、耕種的、生物的、物理的な防除を総合的にすすめ、科学農薬の使用をできる限りへらしめます。</p> <p>ホ. 品目、品種・・・適地適作を基本に持続型、環境保全に適したものを選定し、輪作を取り入れ農地の生態系の健全化を図ります。</p> <p>ヘ. 農業資材・・・資材の選定、使用法、リサイクル（再利用）によって出来るだけ環境負荷を少なくします。</p> <p>ト. 地域環境・・・地域と農地における生物多様性の保全、自然を大切に、より豊かな環境を創造していきます。</p> </div>	

- (1) 環境に配慮した農業技術の実践と工夫
 - ・土づくりは、市内の畜産農家生産の良質堆肥を投入している。
 - ・化学肥料節減では、各作物ごとに専用の有機質肥料を選定し施用している。
 - ・化学合成農薬節減では、水稻で温湯種子消毒技術を導入したり、果樹では雨よけ栽培やフェロモン剤利用技術を導入し、慣行の5割から2割の削減を図っている。
 - ・
 - (2) 家畜排泄物、稲わら、食品残さ、農業用廃ビニール等のリサイクル利用の実践と工夫
 - ・市内の畜産農家との連携を図っている。
 - ・果樹の剪定枝は、チップにして雑草防除等に利用している。
 - ・雨よけ資材（ビニル）等の再利用や廃棄時の適正収集を行っている。
 - (3) 温室効果ガスの排出の抑制、オゾン層破壊物質である臭化メチル削減等を含む先進的な環境保全型の農法の実践と工夫
 - (4) 持続的な環境保全型農業の実践と経営確立
 - ・県内でも先駆的（平成13年度）に、エコファーマー（組織内で34戸、おうとう及びぶどう）の取得を行った。
 - ・最大の販売先である東都生活協同組合とは、20数年来のつきあいであり、「土作り宣言21エコプラン」と「アクションプログラム」を締結しながら、パートナーとして農作物の生産を続けてきた。
4. 周辺等への影響力・普及力（審査基準となる事項を中心に、アピール点を明確に記述すること）
- (1) 創造性・地域的な影響力
 - ・法人設立時の基本理念を基に、地域農業と自然環境を大切にしながら、消費者にとっても生産者にとっても安全、安心な作物生産に努めている。
 - ・生産から出荷、翌年の作付計画作成までの間に、4度のチェックを行うこととしており、信頼性の確保にも努めている。
 - ・各部門ごと（果樹、野菜等）の定例会を基本にしながら、年に数回の全体会を開き末端の生産者まで話を通すことによって、食物を作るものとしての意識と技術の向上につとめている。また、すべての部会で日生協52品目の危険農薬の排除と、化学肥料を使わずに有機肥料のみの栽培をめざし、日々努力をしている。
 - ・部会では、技術講習会を開催しながら、新しい技術や新しい資材等の導入を積極的に行っている。
 - ・南陽市の「エコエリアなんよう推進協議会」の構成委員（鈴木代表取締役）として、地域内の環境保全型農業推進上のリーダー的役割を担っている。
 - (2) 消費者等との交流、食農教育、環境教育への参画等を通じた地域の活性化と地域社会発展への貢献
 - ・首都圏消費者との交流は東都生活協同組合をとおして行っている。
 - ・毎年さくらんぼ交流会を開催している。本年度は「おいしさの品評会」で消費者（お母さん方）から評価をいただき、生産者と消費者がともに食物をつくるという意識の向上につなげている。
 - ・ホームページを開設（www3.omn.ne.jp/~nonnon/）しながら消費者への情報の提供を行っている。
 - (3) 地域の農業資源保全と活性化
 - ・地域と農地における生物多様性の保全や自然を大切にしながら、より豊かな環境の創造に努めている。

5. その他特記事項

<”のんのん倶楽部”の由来>

- ・現在のような農家にきびしい世の中に振り回されることなく、のんきにのんびり自分たちの農業を楽しみながらがんばっていこうという考え方から。
- ・野ん野ん、農ん農んから。
- ・山形に百姓一揆のことを書いた童話があり、その中に出てくる「(一揆の前夜)風がなく、のんのんと降る雪、一晩で二尺も積もる。」節から、降る雪に喩えられるような、雪国独特の静かさのなかに秘めた強いエネルギーを持ちたいと思うことから。

6. 取組の成果と展望

- ・JAの1組織から農事組合法人、有限会社と発展してきた組織であるが、基本理念を大切に持ち続けた組織である。
- ・今後も、環境保全型農業に取り組みながら、土づくりを基本にして健康な作物を育て、農作物生産を元気に進めていくことにしている。